

# 平成28年度 第4回 アーバンデザインスクール 実績報告

平成29年2月18日  
草津市総合政策部草津未来研究所  
アーバンデザインセンターびわこ・くさつ

## 1. アーバンデザインスクールの目的

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）は市民・大学・企業・行政のそれぞれの立場の人々が気軽に立ち寄り、草津市の未来について自由に語り合う場として開設した。アーバンデザインスクールでは、アーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）の企画や運営に積極的に関わり、専門家と市民の間のより円滑な意見交流をサポートする、媒介の機能を担う専門家の育成を目的とする。

## 2. アーバンデザインスクール内容等

初年度ということから、「アーバンデザインスクールを知る」をテーマに5回シリーズで実施する。全5回のコーディネーターは肥塚浩氏（立命館大学経営学部教授）。

各回スケジュールは以下のとおり。

機能	日時	内容
第1回	平成28年11月12日(土曜)	テーマ：「アーバンデザインセンターとは？」 講師：信時正人氏 (立命館大学デザイン科学研究センター客員研究員)
第2回	平成28年12月10日(土曜)	テーマ：「松山アーバンデザインセンターの運営」 講師：松本啓治氏 (愛媛大学防災情報研究センターアーバンデザイン研究部門教授)
第3回	平成29年1月14日(土曜)	テーマ：「UDCBKの検討経緯について」 講師：溝内辰夫 (UDCBKシニアディレクター)
第4回	平成29年2月18日(土曜)	テーマ：「南草津駅の商業集積について(仮)」 講師：大橋康男 (草津市都市計画部まちなか再生課参事)
第5回	平成29年3月11日(土曜)	テーマ：「これからのUDCBKについて」 講師：及川清昭 (UDCBKセンター長・立命館大学工学部教授)

いずれも会場は市民交流プラザ中会議室で行う。

時間は午前10時から正午まで。

### 3. 第4回 アーバンデザインスクール概要

#### (1) テーマ・目的等

- ① テーマ：「草津・南草津の特性と湖南エリアの商業集積について」
- ② 内容：アーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）のコンセプトが出来るまでの検討経緯について。
- ③ 開催日：平成29年2月18日（土曜）午前10時から正午まで
- ④ 開催場所：市民交流プラザ 中会議室（フェリエ南草津5階）
- ⑤ 講師：大橋 康男  
（草津市都市計画部 まちなか再生課）
- ⑥ コーディネーター：肥塚 浩氏  
（立命館大学経営学部教授）

#### (2) 当日のスケジュール

2

## アーバンデザインスクールの進め方

- 10:00 UDCBKについて  
溝内 辰夫（アーバンデザインセンターびわこ・くさつ シニア・ディレクター）
- 10:10 「草津・南草津の特性と湖南エリアの商業集積について」  
大橋 康男（草津市都市計画部まちなか再生課）
- 10:50 質疑応答
- 11:05 ワークショップ 学習企画の提案
  - 4グループ（5～6名）に分かれ、議論
- 11:30 グループ発表（4グループ×3分）
- 11:45 講評 話題提供者と肥塚先生より講評
- 11:55 アンケート記入等

注記：今回は時間の関係で質疑応答は実施しませんでした。

#### 4. 第4回アーバンデザインスクールの内容について

(1) 大橋 康男（草津市都市計画部 まちなか再生課）による話題提供

テーマ：「草津・南草津の特性と湖南エリアの商業集積について」（約40分間）



写真 1.話題提供のようす

#### 湖南エリアの商業施設について

湖南エリアには草津市を中心に主要大型商業施設が集まっている。

湖南エリアの各地域の商業施設の特徴としては、駅前に老若男女が集まるエيسクエアや、シニア世代にも対応した平和堂、多数のブランドを扱う近鉄百貨店が揃い、郊外にはファミリー向けのイオンモール草津や、ピエリ守山、フォレオ大津一里山が立地している。このように湖南地域には多様な世代に対応した、都市型商業施設や生活密着型商業施設が揃っている。

#### エイスクエアの開発から現在までの経緯

昭和32年に紡績工場があった地を、草津駅西口が開口したことをきっかけに「駅前に工場があっては、まちの発展を阻害する」という考えから、工場を移転し商業施設の開発が検討された。

平成8年にエイスクエアがオープン。その後、近隣エリアに複合商業施設がオープンするなどの環境の変化に対応し、定期的なリニューアル（開発）を継続することで、他店との差別化を図った。また、複合商業施設でありながら、駅前立地としての利便性も備えた地域密着型施設でもあることで、老若男女が集まり、男性客も多い。

### 草津と南草津の比較・南草津駅前の現状と今後について

百貨店などの商業施設が揃い、成熟したまちである草津に比べると、南草津は駅周辺の商業が未整備である。また、草津は成熟したまちである一方、商店街の衰退など商業格差が生まれている。

今後の課題としては、草津は住民サービスを含む都市機能の整備、南草津は都市・環境デザインが課題である。南草津駅は乗降客数が草津駅を上回っており、駅前のシンボルとなる商業施設の整備が必要。また、現在ある駅前商業施設は、開業以来ほとんど変わりがなく、集客のためにも見直しが必要である。近年のマンションの建設ラッシュで、今後の更なる人口増加も見込まれるため、人口推移に合わせたヤングやヤングファミリー向けの商業施設などの都市開発が必要である。

### まちづくりに大切なこと

計画的かつ一体的な開発が必要である。地域に必要な機能は何かを総合的計画で、相乗効果のあるまちづくりを進めることが大切である。

また、再開発に重点を置くだけでは、商業施設の魅力がなくなり中心市街地の活性化を阻害してしまう。目指す機能やコンセプトを優先し運営することが大切である。

草津・南草津駅周辺の都市機能を強化し、郊外での大型施設の開発だけでなく、中心市街地への誘導の強化が必要である。

### まとめ

南草津駅周辺の具体的な商業開発を考える上で大切なことは、草津エリアにおいては草津駅前を商業の中心として位置づけることである。商業施設・オフィス・マンションなどの都市機能が充実している草津駅周辺の人口増加を見込んだインフラ整備を進めるべきである。

これを理解した上で、南草津駅の乗降客数や今後の人口増加を見込んだ都市機能を開発することが重要である。(たとえば多世代向けの利便性とヤングやヤングファミリーが好む商業施設等。)また、南草津は商業の面で高齢化社会に向けたまちとしては利便性に欠ける。人口増加と併せて高齢化社会も見込まれるため、買い物などの利便性を備えた「生活ファースト」のまちづくりが必要である。

## (2) グループディスカッション

4グループに分かれて「10年後の南草津の商業集積」について議論。

(約25分間)

4つのグループに分かれ、「10年後の南草津の商業集積」をテーマに、多世代の人々が住む南草津にどのような施設やお店が必要か、などを各グループで議論し、意見をふせんやカラーマーカーを使って模造紙にまとめていただきました。



写真3. 各グループの話し合いの様子

## (3) 各グループのまとめを発表 (約3分間/各)

### 各グループの意見

- ①
  - ・地域の人材を活用
  - ・多世代型施設
  - ・自転車用道路、歩いて回れる街並み
  - ・お洒落な店や娯楽施設
  - ・学生向けのサークル活動ができるカラオケ



- ②
- 子どもとお年寄りがふれあえる
  - 大学生が通学前に立ち寄れる場所
  - 商業施設に行くためのアクセスの強化
  - 駅前周辺以外にも商業施設を充実してほしい



写真4. 発表のようす

- ③
- 人が回遊できる
  - バス停をビルの中に併設し、商業施設へのアクセスを簡単にする
  - お洒落なカフェ
  - 駅の中でお土産を販売
  - 屋上庭園（愛彩菜を栽培）
  - 一時避難所を兼ねた商業施設
  - 駅前の道路交通整備
  - 駅前に商業施設を造ることで南草津に立ち寄る人を増やす



写真5.グループのまとめ

- ④ 夜も明るいまちにしたい
- ・ 駅を活かして交流を増やす（朝市など）
  - ・ 世代間の縦のつながりを増やす
  - ・ 質の高い商業

(4) 講評

➤ 大橋

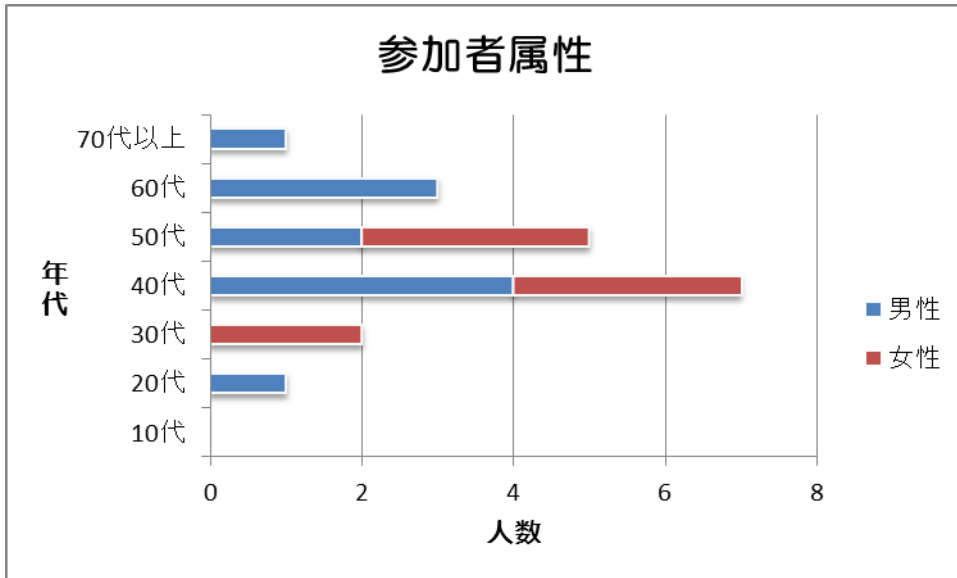
市民の思いを取り入れて、継続的なまちづくりが大切である。

新しく駅ビルなどの商業施設を造るだけでなく、既存の施設も一体的に開発すべきである。また、高齢化社会に向けてコンパクトシティ化を進めることも重要である。

## 5. 第3回 アーバンデザインセンターとしてのまとめ

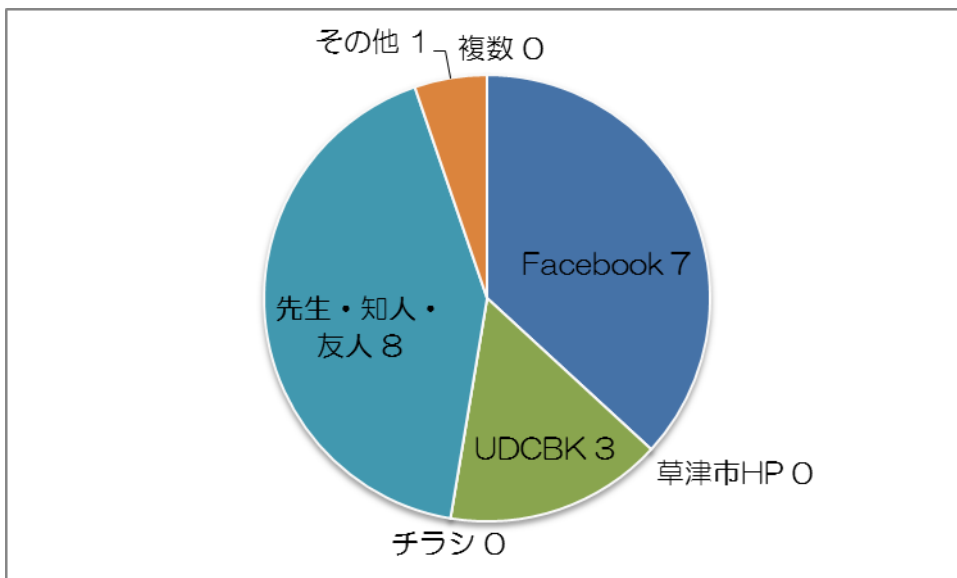
### ▶ アンケート集計結果

参加者数 29 名に対して、アンケート回収数は 19 件でした。回答率は 62%でした。



各回と同様に男性の参加者が多く、10代～20代の参加者が少ない結果となりました。

Q.アーバンデザインスクールをどこで（何で）知りましたか？



前回と同様に UDCBK の Facebook で知っていただいた方が一番多い結果となりました。今回は 3 名の方々がスクールに初めて参加され、積極的にワークショップにもご参加いただきました。また、アンケートにはワークショップの時間や流れについての御意見も多数いただき、ワークショップや発表の時間配分、制度設定など改善すべき点がいくつか見られました。



➤ セミナー参加者の主な意見

- 普段の仕事や家庭での会話と全然ちがう話ができるようになって脳が活性化しました。みんなの議論が少しずつ形になっていくといいですね。
- 講師の話もりんじょう感がありよかった。グループワークでは非常に活発な議論でよかったです。このような活動を政策に活かす、出口があればよいと思います。
- いつも住んでいて気づかない自らの街を再考できた。今後も生活の中で考えて行きたい。
- ワークショップを2回3回繰り返してもいいのでは？他の班の発表を受けて、自分たちの班のアイデアをブレストしていてもいいと思いました。アイデアばかりでなく、課題についてもっと話しても。
- 実践経験の豊富な（今回のような）講師のトークは参考になり、多く呼んでほしい。フリートーク時間がやや短め。
- テーマに沿った議論を参加者みんなでできるようにフレームワークを提案するなど、主催者側に工夫がほしい。話している間、提案している間にもテーマからずれている。
- 大変楽しかったです。グループワークの制度設計があった方がよいかと思います。

➤ UDCBK としての成果

草津に関連する具体的な事例を参考にワークショップを行うことができました。また第4回でもあり、リピーターと新規の方のバランスがとれ、企業の方や市外の方など多様な人に参加いただけるようになりました。

➤ 今後の課題

第4回目の開催ですが、過去のアンケートからもワークショップの進め方や時間配分について、いくつか御意見をいただいています。より深い議論をしていただくためにも、余裕のある時間配分や、初めて参加される方向けにワークショップの進め方について簡単な説明が必要であり、今後の課題でもあると考えています。